

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503486), 法人名 (株式会社 ゆうらく), 事業所名 (高齢者グループホーム「遊楽館」平岡), 所在地 (札幌市清田区平岡4条1丁目12番4号), 自己評価作成日 (平成30年7月27日), 評価結果市町村受理日 (平成30年9月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・玄関先には季節の花々を植え、訪れる方に「やすらぎ・楽しみ」をあたえられるよう、また、リビングは「落ち着ける・安心できる」空間を作れるよう努めている。
・日常生活では体操やレクリエーションの他に各自が出来る範囲での軽作業(掃除・食器洗い・庭の手入れ等)を行って頂き、体力の低下を防ぎ、また、生活に張りを持っていただけるようにしている。
・入居者様とご家族様との「親子の思い出」を多く作る為にも、ご家族様が参加出来る様な行事を企画し「共に生きている」と感じられる時間作りも多く出来る様努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170503486-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年8月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「わたしたちはあなたの孫の手になりたい」理念の元、運営方針を掲示し職員と共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校・こども園・児童館との定期的な交流やイベントでのボランティア、利用者ご家族の参加、庭の草花を通しての近隣住民とのコミュニケーションを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様・ご近所様からの介護相談は行っているが、町内との関わりは少ない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第2金曜日と日にちを決め行っているが、ご家族様の参加は少ない。議題に出るご家族様の要望には即時対応している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区・包括センターとは更新・会議等で定期的に相談・交流している。また、地域避難所としても機能出来る様、町内会・町作りセンター・区役所との連絡も取り合っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を通じ研修・会議を行っている。また、月一回をめぐりにユニット会議を開き個別にカンファレンスを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・会議を通じて個別カンファレンスを行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が相談・対応しているが、他職員がこれに対し学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が説明・対応しておりご家族様の窓口になっている。また、契約内容はユニットリーダーを中心に掌握出来るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時や運営推進会議でご家族様の要望・希望をくみ取るよう努めている。ご家族様からの意見は必要に応じ会議を開き即時対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を定期的に行い対応している。また、意見を提案しやすい職場環境になるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位に習い職員の能力評価を行っている。また、個別面談を通じ職員の働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会を設け、社内研修を定期的に行っている。また、全体会議等で問題や課題について話し合い実践し、職員の能力アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の会議や交流会に管理者を中心に参加している。また他施設とはイベントを通じ交流出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能な限りアセスメント・面談を行い、入居後に本人はもちろん現場職員にも不安がないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から入居にあたっての不安や希望・要望をお聞きして、安心して過ごしていただけるよう様々な提案をさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で行う支援の提案はもちろん、必要と思われる場合は外部委託のマッサージやデイケアの利用、オムツ券の使用等をお伝えし対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設は入居者様のご自宅であり、常に入居者様に自己発信していただける様な声かけや働きかけを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント等、共に参加していただいたり、面談・通院時に現段階での状況や今後の方針を確認しあい共に支援していけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は特に制限もなくお友達や親戚等気軽に来ていただける環境作りを行っている。また、馴染みの店や墓参り等の外出も積極的に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性に合わせて食席の位置を工夫したり、出来るだけリビングに出ていただき体操やレク、軽作業を通じて馴染みの関係が出来る様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死去・退去された後も相談等があれば真摯に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の寄り添いの中で入居者様の思いや意向を聞き取り、必要に応じご家族様と協力しながら実行出来る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様・入居者様の声から情報を集め、継続した支援が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議にて個別カンファレンスを行い随時対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望・ご家族様の想いに沿った介護計画を作成し定期的に確認している。また、日々の支援も計画に沿った内容で行えるよう職員が計画を確認しながら行えるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はタブレットを用い即時に行えるようにしている。また、必要に応じ臨時会議を開き情報を共有し実践出来る様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談や要望があった際には可能な限り現実出来る様、職員で検討しご家族様に提案させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じ公園等に外出し草花を楽しんだり、学校の行事に招待していただいたり楽しまれるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診と訪問看護師を利用し健康管理に努めている。また、馴染みの病院への通院はご家族様と協力し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体異常を感じた際にはその都度すぐにかかりつけ医と訪問看護師と連絡を取り合い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じ各病院の医師を交えカンファレンスを開き、退院後のホームでの生活に不安がないよう努めている。また、ご家族様には退院後起こりうるリスクや注意点をしっかりと説明している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様には重度化する以前から今後起こりうるリスク等を話し合い検討することで不安を少しでも軽減出来るよう配慮している。また、みどりについてもご家族様の希望に沿って対応出来る様、医師・看護師と情報を共有し対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は医師や看護師と連携を取り迅速に対応出来る様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2か月に1回の頻度で行えるよう努めている。また、災害時には地域避難所として機能できるよう区・町内会と話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への呼びかけは苗字でさん付けを基本として、管理者は入居者様の人格や尊厳を守る為に、親しさと馴れ馴れしさを混同することのないよう指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位になるような声かけをホームとして目指しているが、時折職員本位になってしまう事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り一人ひとりのペースに合わせて生活出来る様支援しているが、時折職員本位になってしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、衣類を選んでいただいたり、外出用の衣類を別にご用意していただいたりしている。女性入居者様には状況に応じ化粧が出来る様支援させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・食材の購入は委託業者が行っているが、入居者様の希望やイベント時は職員が食材購入し希望に沿ったメニューを提供し、たのしく食事出来る様努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は概ね召し上がっていただいている。水分は摂取困難な方もおられるので介助時は注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて行っていただけるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄を基本として排泄パターンを記録し、入居者様のサインを見逃さないように見守り、必要に応じてプライバシーを損なわないよう声かけし定期的に誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整える為、毎朝牛乳・ヨーグルトドリンクを摂取したり、必要に応じ腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基準として、希望やその日の体調等を考慮して行っている。お断りされた時は無理にお誘いせず時間や日にちをあげ再度お誘いするようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間は個々に異なりまた、眠るまでの過ごし方も違う為、特に消灯時間は設けず個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用状況は職員間で情報共有を徹底し、服用時は飲み終わるまで確認している。薬の目的・副作用についてはすべてを理解している職員は少ない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に有する能力が違う為、その方に合った生活が送れるように支援計画を作成している。毎月3回以上イベントを開きそれぞれに合ったものに参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気象状況にあわせ近くの公園等に散歩しに行ったり、外でバーベキューをしたりしている。また、外出レクでご家族様と一緒に動物園散策等も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理出来る方は自分でお金を持ち買い物出来る様な支援を行っている。また、訪問販売では入居者様が自由に買い物出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話・固定電話を個人で持たれている方もおられ、もっていない方は要望があればホームの電話を使用していただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内には絵画や植物・花を飾り入居者様に楽しんでいただける様にしている。また、季節毎の飾り物もしており四季を感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとは別に少人数で休める空間を作り活用している。和室は現在和室として機能していない状態である。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの生活が継続出来る様、ご家族様と相談しレイアウトを考えている。また、入居後も必要に応じ随時対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの出来る範囲で日常的な軽作業(掃除・洗濯物畳み・食器拭き・調理・盛り付け等)を行ってもらい生活にメリハリをつけるよう支援している。		